



平成28年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成28年10月31日

上場会社名 日本和装ホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2499 URL <http://www.wasou.com/profile/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田重久
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 菅野泰弘 TEL 03-3216-0070
 四半期報告書提出予定日 平成28年11月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年12月期第3四半期の連結業績（平成28年1月1日～平成28年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | |
|--------------|-------|-------|------|-------|------|-------|----------------------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 28年12月期第3四半期 | 3,379 | △6.3 | 51 | △45.4 | 3 | △89.7 | △16 | — |
| 27年12月期第3四半期 | 3,607 | △20.2 | 93 | — | 31 | — | 10 | — |

(注) 包括利益 28年12月期第3四半期 △22百万円 (—%) 27年12月期第3四半期 10百万円 (—%)

| | 1株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 |
|--------------|-----------------|----------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 28年12月期第3四半期 | △1.89 | — |
| 27年12月期第3四半期 | 1.19 | — |

(注) 平成28年12月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。また、平成27年12月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|--------------|-------|-------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 28年12月期第3四半期 | 5,858 | 2,187 | 37.2 |
| 27年12月期 | 6,310 | 2,245 | 35.4 |

(参考) 自己資本 28年12月期第3四半期 2,177百万円 27年12月期 2,236百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|-------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 27年12月期 | — | 2.00 | — | 2.00 | 4.00 |
| 28年12月期 | — | 2.00 | — | — | — |
| 28年12月期(予想) | — | — | — | 2.00 | 4.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成28年12月期の連結業績予想（平成28年1月1日～平成28年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属 する当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|-------|-----|------|------|------|------|---------------------|------|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 5,200 | 4.5 | 300 | 24.5 | 220 | 37.5 | 110 | 54.9 | 12.22 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

| | | | | |
|---------------------|-----------|------------|-----------|------------|
| ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） | 28年12月期3Q | 9,002,000株 | 27年12月期 | 9,002,000株 |
| ② 期末自己株式数 | 28年12月期3Q | 0株 | 27年12月期 | 0株 |
| ③ 期中平均株式数（四半期累計） | 28年12月期3Q | 9,002,000株 | 27年12月期3Q | 9,002,000株 |

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点での入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 連結経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 連結財政状態に関する説明 | 2 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 2 |
| 2. サマリー情報（注記事項）に関する説明 | 3 |
| 3. 四半期連結財務諸表 | 4 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 4 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 5 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第3四半期連結累計期間 | 5 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第3四半期連結累計期間 | 6 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 7 |
| （継続企業の前提に関する注記） | 7 |
| （株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） | 7 |
| （セグメント情報等） | 7 |
| 4. 補足情報 | 7 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間においては、秋の「無料きもの着付教室」の新規受講者の獲得に注力しましたが、応募者は昨年実績を下回りました。ただし春の新規受講者募集時における企業認知度や企業イメージ向上に寄与した実績をベースに、現在起用中の男性タレントへの支持が高い、シニア層の女性を意識したテレビCM制作や新聞折込み制作を実施した結果、新規受講者の年齢層はシニア層にシフトし、ほぼ狙いどおりとなりました。

一方「きものだよ！全員集合」等の卒業生向けの販売仲介機会では顧客に楽しんでいただくイベントに注力した結果、売上高は比較的順調に推移しました。

また卒業生向けに新たな着付け技術を教える教室「着付けの神さま」を企画、募集した結果、2千人をこえる受講者を集め、教室カリキュラム中の販売仲介機会においては、順調な売上で推移しております。

連結子会社については、株式会社はかた匠工芸（博多織の製造販売業）が、引き続き男きもの市場の開拓に注力し、直販店である「男きもの専門店SAMURAI」では売上げをのばし、原価率の改善とあわせ損益は改善傾向にあります。日本和装クレジット株式会社（当社グループの顧客向けショッピングローン事業）は、安定した業績で推移し、連結業績の向上に寄与しています。

これらにより、売上高は3,379百万円（前年同四半期比6.3%減）となりました。売上高の減少に伴い売上原価（着物や帯の縫製に係る費用）が減少しました。販売費及び一般管理費については、経費全体を見直して効率化を進めた結果、減少しました。その結果、営業利益は51百万円（前年同四半期比45.4%減）となりました。営業外損益では、日本和装クレジット株式会社の借入金減少により支払利息及び支払手数料が減少しました。

これらの結果、経常利益は3百万円（前年同四半期比89.7%減）となりました。特別利益では、当第3四半期において固定資産売却益45百万円を計上しました。これは、当社の京都局（現在廃局）等で使用していた京都のビルを売却したことによるものです。法人税等は、法人税、住民税及び事業税を計上するとともに、法人税等調整額を計上した結果、65百万円（前年同四半期比3.4%増）を計上いたしました。これらの結果、親会社株主に帰属する四半期純損失は16百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益10百万円）となりました。

なお、当社グループは、和服及び和装品の販売仲介を中心とした、きもの関連事業の単一セグメントのため、セグメント情報に関連付けた記載を省略しております。

(2) 連結財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して451百万円減少し、5,858百万円となりました。流動資産において、日本和装クレジット株式会社が保有する割賦売掛金が225百万円減少したこと等によるものです。

負債につきましては、前連結会計年度末と比較して393百万円減少し、3,671百万円となりました。これは主に固定負債において、日本和装クレジット株式会社の長期借入金が返済により319百万円減少したことによるものです。

純資産につきましては、四半期純損失16百万円を計上し、配当金36百万円を支払ったこと等から、前連結会計年度末と比較して58百万円減少し、2,187百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年2月12日に公表いたしました連結業績予想からの修正は行っておりません。

現在の取り組みについて

卒業生向けの販売仲介機会の売上高は継続して順調なことから、さらに購入意欲のある卒業生の掘り起こしに注力しています。当第3四半期において実績を上げた卒業生向け着付け教室「着付けの神さま」の「続編」を募集し、応募数は順調です。また、引き続き開催されている「きものだよ！全員集合」や小規模で開催される「匠の会」での売上げも順調に推移しております。

2020年の東京オリンピック開催に向けて、様々な方面から「和装」が注目されています。その「きっかけ」を後押しし、育て、ブームに結びつけることができるのは、当社が持つ「教えて、伝えて、流通を促す」というビジネスモデルであると考え、和装の魅力を広げていくことに注力していきます。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

会計方針の変更

（企業結合に関する会計基準等の適用）

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。）、
「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。）及び
「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。）
等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本
剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しておりま
す。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原
価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更してあり
ます。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。
当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及
び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項（4）、連結会計基準第44-5項（4）及び事業
分離等会計基準第57-4項（4）に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来
にわたって適用しております。

なお、これによる損益に与える影響はありません。

（平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用）

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告
第32号 平成28年6月17日）を第2四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び
構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

これによる損益に与える影響は、軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成27年12月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成28年9月30日) |
|---------------|--------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 1,299,387 | 1,325,400 |
| 営業未収入金 | 257,568 | 226,924 |
| 割賦売掛金 | 3,045,111 | 2,819,535 |
| たな卸資産 | 120,448 | 171,164 |
| その他 | 651,455 | 478,186 |
| 貸倒引当金 | △44,804 | △45,499 |
| 流動資産合計 | 5,329,166 | 4,975,712 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 418,751 | 391,857 |
| 無形固定資産 | 119,950 | 99,226 |
| 投資その他の資産 | 442,603 | 391,794 |
| 固定資産合計 | 981,305 | 882,878 |
| 資産合計 | 6,310,471 | 5,858,590 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 営業未払金 | 38,110 | 46,019 |
| 短期借入金 | 2,189,616 | 2,157,498 |
| 1年内償還予定の社債 | 100,000 | 50,000 |
| 未払法人税等 | 14,032 | 41,401 |
| 前受金 | 202,355 | 271,430 |
| 営業預り金 | 8,643 | 11,440 |
| その他 | 435,805 | 387,189 |
| 流動負債合計 | 2,988,564 | 2,964,978 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 50,000 | — |
| 長期借入金 | 952,892 | 632,893 |
| その他 | 73,629 | 73,629 |
| 固定負債合計 | 1,076,521 | 706,522 |
| 負債合計 | 4,065,085 | 3,671,500 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 459,634 | 459,634 |
| 資本剰余金 | 336,487 | 336,487 |
| 利益剰余金 | 1,453,185 | 1,400,184 |
| 株主資本合計 | 2,249,308 | 2,196,306 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| 為替換算調整勘定 | △12,562 | △18,519 |
| その他の包括利益累計額合計 | △12,562 | △18,519 |
| 新株予約権 | 8,640 | 9,303 |
| 純資産合計 | 2,245,385 | 2,187,089 |
| 負債純資産合計 | 6,310,471 | 5,858,590 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日) |
|---------------------------------------|---|---|
| 売上高 | 3,607,650 | 3,379,541 |
| 売上原価 | 383,268 | 323,406 |
| 売上総利益 | 3,224,381 | 3,056,135 |
| 販売費及び一般管理費 | 3,130,619 | 3,004,900 |
| 営業利益 | 93,762 | 51,234 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 316 | 175 |
| 為替差益 | 12,301 | — |
| その他 | 5,552 | 4,307 |
| 営業外収益合計 | 18,170 | 4,482 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 36,345 | 27,297 |
| 支払手数料 | 29,174 | 19,965 |
| その他 | 14,470 | 5,159 |
| 営業外費用合計 | 79,991 | 52,422 |
| 経常利益 | 31,941 | 3,294 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 42,247 | 45,336 |
| 特別利益合計 | 42,247 | 45,336 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 74,189 | 48,630 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 9,158 | 47,459 |
| 過年度法人税等 | 30,293 | — |
| 法人税等調整額 | 23,999 | 18,164 |
| 法人税等合計 | 63,450 | 65,624 |
| 四半期純利益又は四半期純損失(△) | 10,738 | △16,993 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△) | 10,738 | △16,993 |

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年1月1日 至 平成27年9月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年1月1日 至 平成28年9月30日) |
|-------------------|---|---|
| 四半期純利益又は四半期純損失(△) | 10,738 | △16,993 |
| その他の包括利益 | | |
| 為替換算調整勘定 | △174 | △5,956 |
| その他の包括利益合計 | △174 | △5,956 |
| 四半期包括利益 | 10,564 | △22,950 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 10,564 | △22,950 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | — | — |

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社グループは、和服及び和装品の販売仲介を中心としたきもの関連事業の単一セグメントであるため記載を省略しております。

4. 補足情報

業績の四半期特性について

当社グループの主な収益源のひとつは、春期と秋期の「無料きもの着付教室」の新規受講者を対象にした販売機会において、各契約企業が商品を販売する際の販売仲介手数料です。春期は第1四半期に受講者を募集・開講し、当該受講者の販売機会は第2四半期が中心になります。同様に秋期では第3四半期に受講者を募集・開講し、当該受講者の販売機会は第4四半期が中心になります。よって業績には四半期特性があります。